

第 1 章：先物

1.1 先物入門

1.1.1 プロローグ 1

2003 年 9 月 9 日の朝、コンピュータプログラマーであるあなたは、やけに現実味のある夢を見ました。それは、仕事の依頼主である(株)リスキーの株を 1 株 1,000 円で 5,000 株買ったところ、3 ヶ月でなんと 3,000 円に値上がりし、飛び上がって喜び、頭を天井にぶつけて目をさました、というものでした。

これぞ神のお告げ、と直感したあなたは、朝一番で証券会社に電話し、リスキー社の株を買おうとしたところ、先立つものがないことに気づきました。預金通帳を調べても、まねき猫の貯金箱を叩き割っても、現実は現実でした。

しかも皮肉なことに、リスキー社からいま請け負っている仕事が完成すれば、3 ヶ月後の 12 月 9 日にはまとまったお金が手に入ります。「それではもう遅い、いまずぐ買わねばならぬ！」と夢と現実の区別ができないほど冷静さを欠いたあなたには、もう仕事どころではありません。

このまま何事もなければ、ただの「夢」だったのですが、運命の神様は大のいたずら好きです。その日の昼頃、あなたは街で友人で金持ちの S とばったり出会い、よせばいいのに S に夢の話を打ち明けてしまいました。神様の仕組んだシナリオですから、そこは話が都合よく進みます。なんと、S はリスキー社株なら腐るほど持っているというのです。しかも、いくつかの条件をつければ、それを 3 ヶ月後に 1 株 1,000 円で売ってもよい、とまで申し出てくれました。

あなたにとってこの話は悪いものではないでしょう。つまり 3 ヶ月後の株価がいくらであっても、3 ヶ月後に現在の価格である 1 株 1,000 円で売ってくれるというのですから。「こんないい話があるだろうか？ これは夢かもしれない、そうなら覚めては困るから、もう飛び上がるのはよそう」と思いながら、S の申し出をうけることにしました。もちろん S は、3 ヶ月後のリスキー社株がいまより値下がりしていると予想しているに違いありませんが、値上がりを信じて疑わないあなたには、どうでもよいことに思えました。

契約に際して S がつけてきた条件とは、次の 2 つでした。

1. 価格に金利分を上乗せする
2. 契約不履行の場合に備え、ふたりは売買代金の 10% を第三者に預ける

金利分上乗せについての S の根拠は、もしあなたがこの 1 株 1,000 円の株をいま買うのであれば、誰かからお金を借りるわけで、その場合あなたは金利を払わなければならないから、というものでした。確かにその金利分は買方のあなたが負担すべきでしょう。また、契約不履行は互いに困りますので、2 番目の

条件も納得できます。

そこで、あなたとSは金利を年利4%と決め、その3ヵ月分に相当する1%(=10円)を株価1,000円に上乗せし、売買契約は以下のようにになりました。

- ・買方=あなた、売方=S
- ・売買銘柄=リスクー社株
- ・売買株数=5,000株
- ・売買価格=1株あたり1,010円
- ・売買代金=5,050,000円(=1,010×5,000)
- ・受渡し日=2003年12月9日

この契約が締結され、ふたりは505,000円(売買代金の10%)を信頼できる共通の友人Eに預けました。

このまま株価に大した変動もなく3ヵ月経過すれば何の問題もなかったのですが、忙しいはずの運命の神様は遊びはじめました。この契約を結んでからわずか1ヵ月後の10月9日には、リスクー社の株価は2,000円になってしまったのです。

さあこうなると、あなたは嬉しさと不安とに同時に襲われます。このまま受渡し日まで値を保ってくればいいのですが、この急激な上昇はここが天井で、この後急落し、受渡し日には1,000円以下になってしまいそうな気がしてならなかったのです。そのリスクを回避するためのいいアイデアを、あなたは思いつきました。Sと結んだ売買契約と同様な契約を、今度はあなたが売方となって、誰かと結べばいいのです。もちろん、価格は1株2,000円でしょう。

そこであなたは、株なら三度の飯より好きという知人のBに、12月9日にリスクー社株を1株2,000円で5,000株買取ってもらえないか?と相談をもちかけました。Bはこの話にすんなり乗り、次のような売買契約を締結しました。

- ・買方=B、売方=あなた
- ・売買銘柄=リスクー社株
- ・売買株数=5,000株
- ・売買価格=1株あたり2,020円
- ・売買代金=10,100,000円(=2,020×5,000)
- ・受渡し日=2003年12月9日

Sとの契約で学んだあなたは、この契約では金利を年率6%とし金利分20円を価格に上乗せし(オレって頭がいい!と、得意なあなた)契約不履行時に備え、売買代金の5%に相当する505,000円(10%では高くお金が足らなかった)を今回も友人Eに預けました。

これで完璧、12月9日になれば、Sから1株1,010円で5,000株買い、同時にBに1株2,020円で5,000株売るわけですから、差っ引き、

10,100,000 - 5,050,000 = 5,050,000 円

の利益となります。しかも元手はかかっていません。Eに預けたお金は受渡し終了時に戻りますので、あとは12月9日を待つばかりです。

信ずる者は救われる、と神棚まで買って毎日手を合わせていたあなたに、12月9日の朝が訪れました。夢の中で電話が鳴っているのに気づき、あわてて受話器を取ったあなたの耳に、取引先であるリスクー社の担当者の信じられないような言葉が飛び込んできました。「あなたに依頼したソフトウェアにバグがあり、リスクー社は損害をこうむった。あなた宛の本日の支払いをしばらく凍結する」と。

Sに支払う売買代金の金策に一日かけずり回りましたが、無駄でした。結局、Sとの契約は不履行となり株を受渡してもらえず、そのため、Bとの契約も不履行となってしまったのです。友人Eに預けておいた合計1,010,000円はとうぜん戻りません。「夢なら覚めてくれ！」と電柱に頭を打ちつけましたが、痛みと共にカーンといういい音が返ってきただけでした。誰かが後ろでクスッと笑ったような気がして振り返ってみましたが、誰もいません。